



名古屋柳城短期大学

# ちやべるにゅーす

第16号

2009年7月20日

「無用の用」という言葉は、役に立たないと思われているものが大きな役に立つという意味で使われます。『莊子』の「人間世」篇の最後で、「人はみな有用の用ばかり知って、無用の用を知ることがない」という歌が歌われるところがあり、ここが「無用の用」の直接の出典になっているわけですが、この篇全体を見ると、「無用」には一般的な理解よりもずっと深い含意があります。例えば、莊子は以下のような物語を語ります。

ある大工が弟子たちを連れて旅する途中、ものすごく大きなクヌギの木を神木とする神社があった。皆がこの木を一目見ようと大変な人だかりになっているのに、この大工は見向きもせず通り過ぎた。弟子たちは不思議に思い、その理由を聞いた。「あの木は舟にすれば沈むし、棺おけにすればたちまち腐るし、家具にすれば壊れるし、扉にすればヤニだらけになるし、柱にすれば虫に食われるし、材木にはならない木で、使うところがない。だからこのような歳まで成長できたのだ。」大工が旅から帰ると、この木が夢に現れて言った。「そういうおまえは、人間の役に立つ他の木とわたしを比べるのか。そういう木は、実が熟せばもぎとられ、大枝は折られ、小枝はちぎられる。役に立つということがかえって自分のいのちを苦しめることになり、寿命を全うせずに道半ばにして死ななければならない。ありとあらゆる『物』で、このことから自由なものはない。だからわたしは、役に立たないということをずっと探し求め続けてきた。自分が死に近づいた今やっと、役に立た

ないということを学んだのだ。もしわたしに何か役に立つことがあったならば、今くらいの大きさになることができたでしょうか？そして、おまえも私も皆『物』なのだから、『物』が他の『物』を値踏みすることができようか。無用であるおまえが、わたしを無用であると言うのはどういうことか。」

このように、「無用」であるということに莊子は積極的な意味を見いだしています。莊子のいう「無用」とは、役に立つ役に立たないという人間の目から見た価値によるものではなく、そういった価値判断を超越した世界にこそ真の価値を認める境地と言えるのではないのでしょうか。

## 「無用の用」

チャブレン 市原信太郎

わたしたちの毎日の生活には、「役に立つ・立たない」ということでいろいろなことを分別し、役に立たないと思われるものを切り捨てる、

このような誘惑がそこかしこにあります。しかし、『莊子』のこの物語が語りかけるのは、そのような視線はわたしたち自身の良さを最大限に引き出すことなく、死に追いやるものだという事です。保育とは、人の良さを引き出すという営みではないのでしょうか。だからこそ、わたしたちはこの「無用」の境地に立つことを必要としているのです。

これはキリスト教教育・キリスト教保育が目指すところとも大いに通じる場所があります。天地を創造された時、神はそのすべてを「良い」と言われました。この「神の良さ」を思い切り味わうために、「役に立たない」ということをあえて大切にしてみませんか。

## 前期合同礼拝報告

高瀬 慎二

今年度の合同礼拝は、5月13日（水）にバリトン歌手の時田直也さんを講師に招いて行われました。

時田さんは、生後半年のときに、未熟児網膜症と診断され全盲となりました。その後、音楽大学をご卒業され、「歌うことは希望を語ること」との想いで、日本国内のみならず、海外でもコンサート活動でご活躍され、多くの方々に希望を与えています。また、西日本福音ルーテル青谷福音ルーテル教会の会員でもいらっしゃいます。

講演のテーマ、およびプログラムは、以下の通りでした。

テーマ 「神に創られた私たち」

聖書 エフェソの信徒への手紙 2章10節

歌 野に咲く花のように

私を過ぎていった風

たんぽぽ

風がやってきた

千の風になって

ふれあい

ガリラヤの風がおる丘で

君は愛されるために生まれた

Amazing Grace

いつくしみ深き【全員合唱】



時田さんご夫妻と市原チャブレン

時田さんの素敵な声でのピアノの弾き語りの合間には、人間誰しもが誰かの役に立っていること、また、命の大切さ、生きていることの素晴らしさをご自身の体験談を交えながら語っていただきました。



演奏中の時田さん

講演の感想を1年生が書いています。その中から一部をご紹介します。

- 本当に本当に感動しました。時田さんの歌声の美しさ、ピアノの美しさ、すごく大きい声だったけどとてもやさしい声で、なんとも言えない気持ちになりました。目が見えなくても素晴らしい人生をおくっているという時田さんの話を聞いて負けてられないと思ったし、たくさんたくさん勇気をもらいました。
- (時田さんの) お父さんの「お前が生まれてきてくれて良かった。」という言葉が何度も出てきて、とても感動しました。私も、将来自分の子どもに、そうやって言葉で伝えられるような親になってみたいと思いました。
- 歌声をきいた時、私は体がゾワゾワした。やわらかくてやさしいピアノの音色にあわせて、一言ずつに感情のこもった歌声が重なったとき、涙が出そうなほど感動をしました。時田さんだからこそ出せるオーラがあると思いました。
- 歌声だけでなく、時田さんの話し方や表

情には、人を惹きつけるものがあると感じました。

- 時田さんは目が見えないのにピアノを弾きながら歌を歌っていて、とても尊敬しました。私もがんばらなきゃいけないと思いました。
- 聖書の一節にあった試練の話にとっても感動しました。私に試練が訪れたときにはこの話を思い出したいと思いました。
- 時田さんのコンサートで私は本当に心を動かされた気持ちだった。どんなに目が見えなくても、前向きに生きている時田さんは本当にすてきな人だと思った。また、時田さんにはすてきなパートナー（奥さん）がいて、本当にいろいろな人に支えられていると思った。自分が今を生きていられることがすごく幸せなことだと実感した。

そのほかにも「歌声やピアノの演奏を聞いて感動し、鳥肌がたった」、「時田さんの歌声をまた聞きたい」といった感想や要望がありました。



弾き語り中の時田さん

講演終盤の無伴奏での「Amazing Grace」は、時田さんの力強く、そしてまさに5月の風のような爽やかで、やさしい歌声が会場に響き渡り圧巻でした。また、ご講演の最後には、学生と一緒に「いつくしみ深き」を歌ってくださり、こころをあわせ、ひとつの空間

を共有することができました。

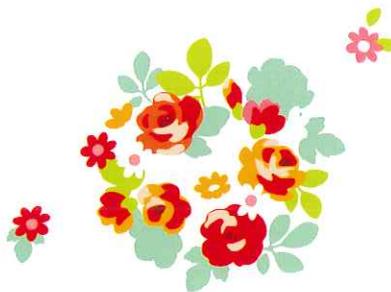
時田さんから生きる勇気と元気をもらい、普段の学校生活では味わえない素敵な時間を過ごすことができました。



Amazing Graceを歌う時田さん



共にお祈りする学生たち



## 辰巳芳子先生講演会

市原信太郎



去る6月6日(土)、体育館において辰巳芳子先生の教育講演会が催されました。

辰巳先生は料理研究者として著名な方ですが、実は本学の卒業生であられ、実際に保育にたずさわった経験もお持ちです。先生ご自身が講演の中でおっしゃったように、柳城で学ばれたことに大変深い誇りと愛着を持っておられ、柳城の110周年に際して後輩たちに何かを語りたい、という先生の強い思いが、今回の講演会という形に結実しました。

辰巳先生のご希望により、講演会に先立って全教職員との会食が行われました。この中でも先生からのメッセージがあり、ご自身の料理研究者としての仕事は柳城でたたき込まれた保育、それもフレーベルの思想によって支えられているということを強調されました。そして先生は、「食」が靈性に結びついた営みであると語られました。食とはすなわち、



教職員との懇談

食べるという具体性、作るという日常性の中にある真理であり、これはすなわち、柳城で厳しく鍛えられた保育計画の立案に代表される保育の姿勢に他ならないこと、そしてそれを通してわたしたちは神との関係を深めていくことができる。これがフレーベルの思想であり、ご自身が料理を通して行っておられることも、このことの展開であると言われました。

午後の講演の中では、わたしたちの予想に反して、料理のお話よりも保育者としての根本的な姿勢に関わることを多くお話くださいました。辰巳先生は、故板東喜久先生の厳しい教育を受け、「ほめられたことなど一度もなかった」ということでしたが、しかしその中で、単なる技術ではない、保育者としての姿勢や生き方を教え込まれたと語られました。その意味での、保育者としての服装や言葉遣い、身だしなみなどについても具体的にご注意をくださいました。



共に「主の祈り」を唱える学生たち

そして、キリスト教保育における保育者とは神と人とを橋渡しするものであり、だからこそ保育者自身が神と人との関係を手放さない練習を絶やさないようにしなければならない、そのためには心を静めるという日頃の訓練が大切であると強調されました。このことを心に留めながら、講演の最後には、皆で心を合わせて「主の祈り」を一緒に唱えました。

多忙なスケジュールの中、本学をご訪問くださった辰巳先生に感謝したいと思います。

## 水曜日の礼拝から

毎週水曜日の礼拝では、いろいろな方に講話をお願いしています。本号では、前期の礼拝の中からお二人のお話をご紹介します。

7月8日

### 「子どもの祈り」

尾上 明子 先生



「天に輝くあなたの威光をたたえます 幼子、乳飲み子の口によって」(詩編8:2b~3)

今日は、私の尊敬する保育の先輩に教えていただいた素敵な事例をご紹介します。

3歳のB君は、入園して以来、ずっとお母さんが帰ろうとすると泣いて泣いて離れられません。園の方針は無理やり母親と子どもを離しません。子どもを信頼して待つのです。B君は、やがて泣かなくなりましたが、お母さんは見えるところに居なくては、とても不安です。2ヶ月ほど経ちました。ある日、突然B君は、「お母さん、帰っていいよ」と言いました。お母さんは、半信半疑で、でも、嬉しそうに帰って行きました。それはあたかも、親鳥の懷にいたひなが、一步外に飛び出した一瞬でした。その日のおやつ時間、おせんべいを一口かじったB君は、突然、隣にいた先生に「お祈りしていい？」と聞いたのです。もちろん、先生は、あわてて食べかけていたおせんべいをお皿に置き、一緒に手を組み合わせました。「ぼく、きょうはひとりでこられました。かみさまありがとう」。

そして、また、食べ始めたB君、「もういちど、お祈りしたいの」と言って「かみさま、あしたもひとりでこられるようにしてください」とお祈りしました。ところが、また、「もういっぺんする」と言い、「かみさま、ひとりでこられるようにちからをくださってあり

がとう。アーメン」と3度目のお祈りをしたのでした。

B君の心は、嬉しさで一杯なのでしょう！ぼくのお母さんだけ園にいる、ということ誰よりも自覚していたのはB君です。子どもは小さくても自尊心がとても強い存在です。早く、自律したいのにできない、B君はさぞ辛かったでしょう。でも、今日、自律宣言ができたのです！それは、彼の人生最大のイベントでした！その嬉しさが3度のお祈りになりました。

B君のお祈りは、まず、ありがとう！と感謝するところから始まりました。私は、感謝する心の営みはとても高度な精神の営みではないかと考えます。ありがとう、という言葉は、「在り難いこと」すなわち、「有ることが難しい」という意味ですね。3歳児のB君は、自分の大きなハードルを乗り越えたことを客観的に認識することができたのです。2ヶ月の道のりの重さを彼は感謝したのです。すごいですね！でも、もっとすごいことは、その感謝を自分ではなく、お母さんでもなく、まず神様にしていることではないでしょうか？そして更に、明日もひとりで来られるようにと祈っているのです。子どもが祈るということ、それは、自分を客観視し自律していく姿です。祈ることを覚えた子どもは、やがて必ず自分以外の人のために祈ることができるようになっていきます。目の前にいない友だち、神様に対して祈ります。その姿は、なんと美しい姿であるかと思わされます。

神さま あなたは  
いつも いっしょにいてくださるのでしょ？  
だから 私は安心して いつも  
まだ知らない新しいものに 向って行きます

『朝です』 マリ=アニェス・ゴドラ  
訳 佐久間 彪 至光社 1992 より

7月22日



「見えること・  
見えないこと」

高瀬 慎二 先生

ものが見えるとは一体  
どういうことなのでしょう  
うか？こんな当たり前で

単純な問いに対しても決定的な答えを持っている人は現在のところいません。ここでは、自分が解き明かそうとしてきた「見えること」、「見えないこと」の不思議について、さらにはそこから推測される、より一般的なことについて、お話ししたいと思います。

我々が見えるはずのないものを見ることができます。これはテレビ番組でよくある霊能者が出てきて幽霊が見えるとかオーラが見えるといったようなオカルト的な話ではありません。人間は、何もない、存在しないという代わりに“何か”があると無意識的に解釈する傾向があります。盲点というものをご存知でしょうか？目の網膜には光を感じ取るセンサーが無数にあります。そのセンサーからの信号はケーブル（視神経）を通して脳に伝わるのですが、盲点はそのケーブルが眼球の後ろの方から出ていく場所になります。この場所には光を感じ取るセンサーが一切ないので、本来ならば視野内（例えば右目だけで見た場合、目を向けた方向から右耳寄りの場所）に大きな穴（手を伸ばした距離で大体、直径5cmくらいの円になります）がなければいけません。しかし、私たちは普段、実際にはそうした穴を見ることはなく、気づかないうちにその穴の周囲の情報を使って穴を埋め込んでいます。例えば、線がその穴をまたいだ場合には、穴の部分の線はとぎれることなく、1本の完結した線となります。すなわち、生物学的な構造上生じてしまった欠点を補うことを人間はいとも簡単にしているのです。この盲点の位置を覚えておくと、退屈な会議の際に

盲点に嫌いな人の頭を入れて、顔を見えなくすることができます（会議が長引いて向かいの人が片目を閉じ始めたら要注意です）。このことを考えると、ものを見ることは、単に網膜上に外からの光が映るということだけで説明できないことがわかって頂けると思います。なぜなら、盲点部分には確かに“何か”が見えていますが、そこにはそもそも光を感じ取るセンサーがないわけですから、その考えでは何も見えないことを予測するからです。

このように、何も無いところ、あるいははっきりとしない部分に何かを埋め込むといったことは、何も視覚に限ったことではなく、もう少し一般的、巨視的な場面でも起こっているように思います。何か心にぼっかりと開いてしまった穴を他のことで埋め込もうとすることはよくあることです。例えば、会社の大きなプロジェクトが終わって燃え尽きてしまい、これじゃだめだと他のことを始めるといったこともあるかもしれません。また、対人関係や人物像の形成にも、この不明瞭な部分への埋め込みが起きているようにも思います。我々は初めて会った人、付き合いの浅い人のように人物像がわからない人たち（すなわち、人物に対する知識に穴がある場合）に対して、言動や仕草といった周辺知識をその穴に埋め込み、その人の人物像を推察しようとします。そして、自分で勝手に埋め込んだ内容が必ずしも正しいとは限らないこと、あるいは勝手に埋め込んだことに対してすら我々は気づきもせず、誤解をしたまま諍いや争いを繰り返しています。さらに、この誤った埋め込みは国家間の争いにも関係しているように思われます。もし、我々が盲点のように普段無視してしまっている、この知識・認識の穴に気づくことさえできれば、そこには、そもそも存在しない誤った内容が埋め込まれていることに気づき、誤解をといていくことができるのかもしれませんが。

## 新任教職員自己紹介

新任の教職員方をそっくりな似顔絵と共に紹介します。似顔絵は保育科1年 安達舞さんと斉藤陽子さんに描いていただきました。

### 村上 誠 先生



図工の“エプロンおじさん”村上です。柳城の、少々狭いけれど和やかなキャンパス、とても気に入っています。子どものアートが専門です。人間は誰でも子どものころはアーティストでした。それなのに、なぜ大人になるとアートから離れてしまうのでしょうか。子どもたちのアートを応援しながら、私たちの心の片隅に追いやられたARTを発掘したいと思っています。

### 横井 志保 先生



私は「ネガティブなことは言ったらダメ！ポジティブに！」とよく言いますので、学生さんに「横井はポジティブ人間」と思われているかもしれません。しかし実はクヨクヨ人間なのです。だから人に言いつつ自分に言い聞かせています！ところで辰巳先生の講演をお聴きし、いかに自分がぼんやり柳城の2年間（イヤ専攻科を入れると4年間）を過ごしたか身に沁みました。立派な先輩に少しでも追いつけるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。

### 大崎 千秋 先生



毎日学生の皆さんの刺激を受けながら、授業を進めています。介護福祉士として現場を忘れないように、福祉施設や在宅ケアにでています。興味のある方、一緒に出かけませんか？きっと、今までにない新鮮な感情が湧いてくると思いますよ。

### 高瀬 慎二 先生



情報機器の操作などの講義を担当している高瀬です。今年度の宗教委員も務めさせて頂いています。学外では、お昼過ぎの時間帯ぐらいに大学近くのコンビニでお昼御飯か、お菓子を買っているところを頻繁に目撃することができますので、もし、見かけた場合には、お勧めの新品を教えてくださいますようお願いいたします。本号のちゃべるにゆーすにも記事を書いておりますので、そちらの方も併せて読んで頂けると幸いです。

### 加藤 久雄 経理課長



こんにちは、4月1日に総務部経理課に着任した加藤久雄です。今年、『村の渡しの船頭さん』と同じ歳になります。つい最近、学生さんから、「先生」と呼ばれたので、お願いだから「事務のおじさん」と呼んでと頼みました。できることなら「事務のお兄さん」と言いたかったのですがこれにはやはり無理があると思いやめました。柳城短大に勤務して2カ月になりますが、学生さんが挨拶してくれるのが本当に嬉しいです。実に良い伝統だと思います。ずっと続くことを願います。これからは、「事務のおじさん」の顔を見たら、よろしく。

### 細川 領 教務課員



2009年に大学を卒業したばかり、社会人としても柳城職員としても1年生の細川領です。そんなんで、お手柔らかによりしくお願いします。

大学では、データベースを専攻していました。ちょっと保育科とは縁遠い気はしています。

学生時代には学長先生の講義を受講したり、ゼミのメンバーと非日常を楽しんだり、ラーメン屋巡りをしたりと、学びに遊びに忙しかったと今更ながらに振り返ってみたりもします。

### ひび野陽子 図書館員



図書館閲覧係として9時から17時まで図書館のカウンターを担当している日比野です。

利用者の皆さんと接する機会が多く、毎日楽しく仕事をしています。貸出・返却業務のほか、新着図書の日録作成や装備などの仕事をしています。

皆さんにとってより使いやすい図書館にしていけたら、と思っていますので、ご要望・ご提案などお気軽にお声掛けください。どうぞよろしくお願いいたします。

2009年7月20日発行 第16号

発行所 名古屋柳城短期大学  
名古屋市昭和区明月町2-54

編集兼  
発行者 名古屋柳城短期大学 宗教委員会

印刷所 株式会社 丸和印刷



この印刷物は再生紙を使用しています。